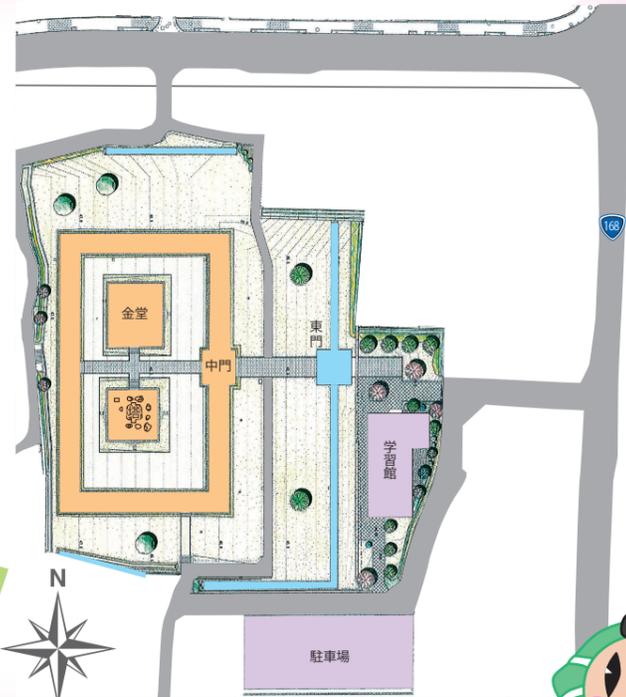


くにしていしせき にんじはいじあと
国指定史跡 尼寺廃寺跡

尼寺廃寺跡学習館内の案内

尼寺廃寺跡学習館では、現存するものとしては日本最大の巨大な塔心礎の模型と、全国で初めて判明した塔基壇の構築過程の土層を剥ぎ取った土層断面(実物)を展示しています。心礎の中には、発掘調査でみつかった舍利荘厳具の出土状況もあわせて復元展示しています。なお、二上山博物館では発掘調査のデータをもとに心柱などを実寸大で復元した模型を常設展示しています。あわせてご見学ください。



アクセス

尼寺廃寺跡学習館 (尼寺2丁目88)

鉄道：JR和歌山線「畠田駅」下車、南西へ徒歩約7分

自動車：西名阪香芝ICから北へ約5分。無料駐車場有(25台)。

入館無料

二上山博物館 (ふたかみ文化センター内)

鉄道：近鉄大阪線「近鉄下田駅」下車、西へ徒歩約5分

JR和歌山線「香芝駅」下車、西へ徒歩約8分。

自動車：西名阪香芝ICから南へ約10分。尼寺廃寺跡学習館から南へ約15分。無料駐車場。入館料大人200円

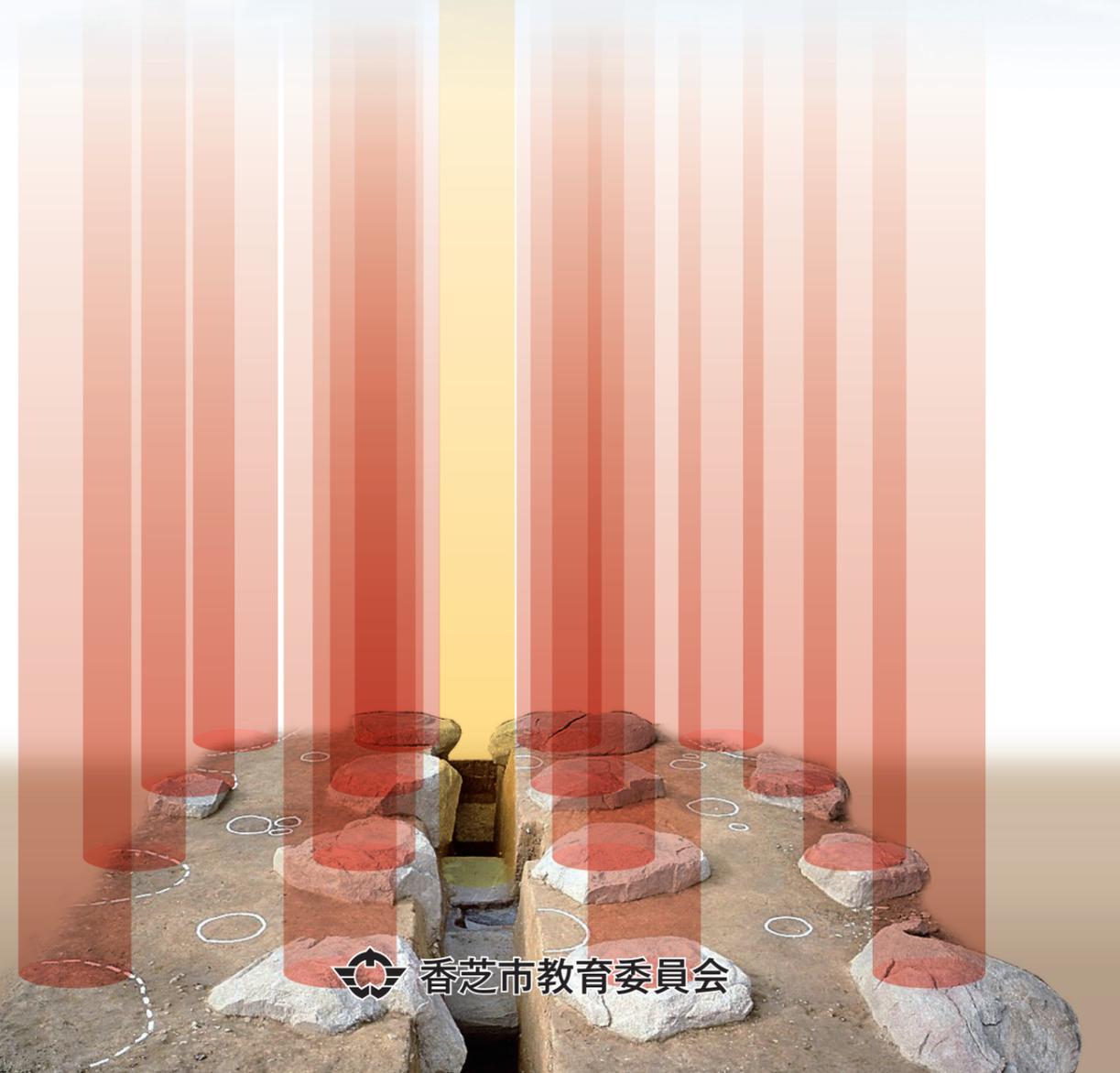
開館時間：博物館 午前9時～午後5時
 学習館 午前9時～午後4時30分

休館日：毎週月曜日
 (国民の祝日、振替休日に当たる場合は開館、翌平日を休館)
 年末年始
 (12月28日～1月4日)

尼寺廃寺跡のあゆみ

- 平成3年 発掘調査開始
- 平成8年 塔基壇から日本最大級の心礎発見
- 平成14年 国史跡指定
- 平成15年 史跡公園整備
- 平成28年 尼寺廃寺跡学習館開館

—— 地中に眠る、日本最大級の心礎。 ——



 **香芝市教育委員会**

史跡 尼寺廃寺 とは？

史跡尼寺廃寺跡（尼寺北廃寺）は、飛鳥時代の後半に創建された寺院跡です。200mほど南の般若院境内でも寺院跡がみつかっています（尼寺南廃寺）。

平成3年度から発掘調査を行い、尼寺北廃寺は東面する法隆寺式伽藍配置であったことがわかりました。なかでも塔跡で見つかった心柱を据える心礎は約3.8m四方の巨石で、日本最大級です。その心礎からは耳環や水晶玉、ガラス玉などの舍利荘厳具も見つかリ、全国で初めて塔基壇の構築過程が判明するなど、貴重な遺跡であることから平成14年3月19日に国史跡に指定されました。



塔のイメージイラスト



心柱などからこんな塔が建っていたのかな



整備された塔跡



地下にある心礎は、据え付けの引き込み作業の際に2つに割れたと考えられます。そして、割れた部分を補修していました。



土を取り除いていくと、柱を据える礎石ができました。



塔跡の発掘調査前はこんもりとした土まんじゅうでした。

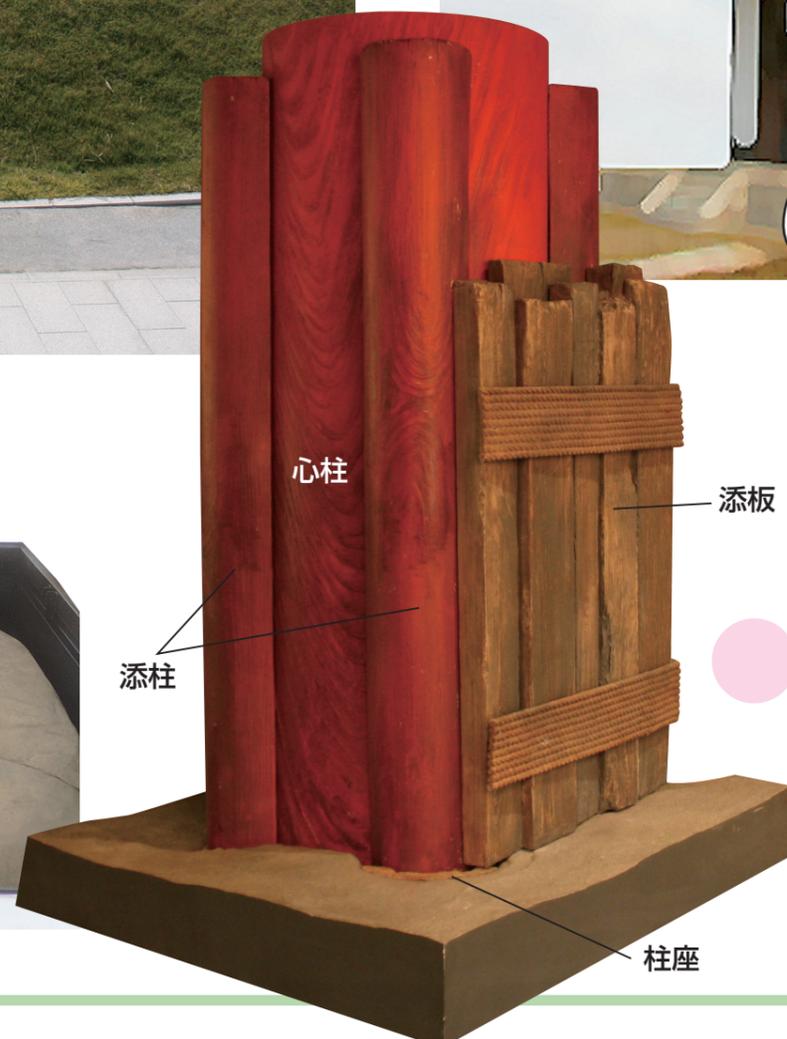


心礎柱座から舍利荘厳具が出土しました。耳環が出土したのは全国で数例しかありません。

二上山博物館で展示中



法隆寺若草伽藍の心礎の中央には尼寺廃寺と同じく四方に添柱孔のある柱座が彫りこまれています。



日本最大! 巨大心礎

塔基壇は一辺約13.5m、柱間は2.36m（8尺）の等間隔で、塔心礎のみ地中にあり、飛鳥時代の有力者が造営した塔の特徴をいくつか備えています。心柱を据える柱座の四方には4本の添柱孔が彫りこまれています。こうした特徴をもつ心礎は尼寺北廃寺と法隆寺若草伽藍などわずかです。尼寺廃寺跡が所在する地域（片岡）を考えると、造営氏族は敏達天皇系の王族が有力ですが、心礎の形態などから聖徳太子とその一族とする説などもあります。



塔心礎復元模型